

岐阜市中央卸売市場

卸売市場

(取材企業：岐阜岐阜青果株式会社)

【会社概要】 所在地：岐阜市茜部新所2丁目5番地
 開業：昭和46年7月19日
 開設者：岐阜市
 卸売業者：4社（青果部2社 水産物部2社）
 仲卸業者：35社

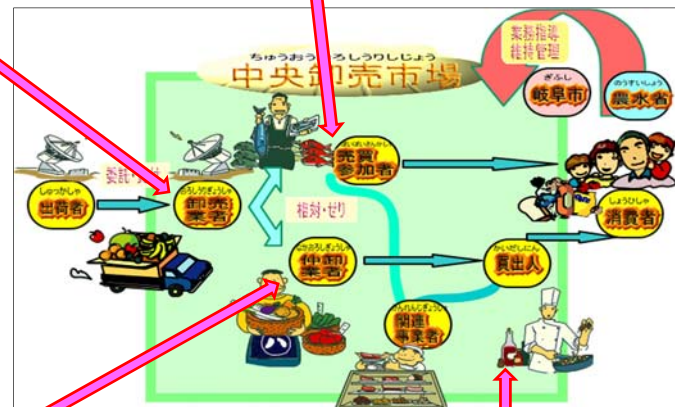
【事業内容・商品】岐阜市中央卸売市場は、生鮮食料品等を生産者から消費者に公正な価格で供給し、岐阜市およびその近郊の方々の食生活の安定と生産者の利益の向上を図ることを目的に食品総合卸売市場として岐阜市（開設者）が再整備したものである。岐阜市中央卸売市場では青果（野菜、果物）、水産物（鮮魚、冷凍魚、加工水産物）の2品目を取り扱っている。



右→AM6：30青果部の卸売業者による競り。（帽子に黄色い札があるのが売買参加者）



上→AM5：00水産物部マグロの競り。真ん中の卸売業者が声をかけ、仲卸業者や売買参加者は購入の意思を指で伝える。



左下→仲卸業者が早朝に競り落としたものを商品化する。
 右下→買出人が仲卸人から欲しい分量だけ購入。



【現状】

○産地直送の割合

一般的に産地直送などの要因で中継機関の卸売業者の重要性が無くなると言われているが、岐阜市は加工商品を入れても産地直送の割合は全流通の3割ほどに収まっている。今後は人口減少傾向であり、全体の規模は縮小していくと思うが、産地直送の割合は変わらないと見込まれる。今のところ岐阜市中央卸売市場においては、以前と変わってはいない。

○収集場所と分散場所が大型化

生産地の減少などによりJA等の合併が行われ、収集場所が大型化している。また、小売業も小さな個人商店が減少し、大型ショッピングモールなどが業績を伸ばしている傾向にあるため、分散場所も大型化している。そのため、間に挟まれた卸売業者の立場が弱くなっているのが現在の問題点である。そこで、中央卸売市場は「安定的にいつも何でもある」という一番の強みを活かし、売り込みを行っている。

○情報化における変化

情報通信機器が発達し、ネットワークが拡大したため、今までは各地で差があった商品単価が全国的に均一化されつつある。また、「既読」がつくのでとても便利だ」という理由から、受発注はLINEで行っている場合もある。

【中央卸売市場の目的】

生鮮食料品等の鮮度を保ち、衛生的に、かつ公正な価格で消費者に供給することにより、食生活の安全・安心・安定を図ることを目的としている。

【地域社会への取り組み】

○市場開放：PR、食文化の向上、食育の推進及び生鮮食料品の消費拡大を目的。

①夏休み親子市場見学会の開催 ②市場まつり ③一般開放

【担当者様からのメッセージ】（岐阜岐阜青果株式会社 参与 笹田様）：

○取引相手が日々変化



卸売業は季節により商品、品目、産地が変わります。例えばスイカならば、はじめは沖縄と取引をしていますが、収穫時期と共に次第に北へと仕入れる産地が変わっていき、取引相手も変わっていくということです。また、天候によって左右されることもありますがその分おもしろ味のある業種です。

○記憶力とコミュニケーション力

卸売業において必要な力は大きく分けて2つあります。1つは記憶力です。様々な判断をするのにスピードが必要になってくることもあり、その都度パソコンのデータを検索している時間はありません。競りなどでの瞬間的な記憶力はもちろんのこと、産地に関する情報を多く学習したり、過去のデータなどを記憶しておくことは大切な力です。

もう1つはコミュニケーション力です。産地の担当者や小売業の担当者などを結ぶ役割であるため、それぞれの業者に納得してもらいつつ利益を上げるために、十分にコミュニケーションが取れる必要があります。

○健康第一

どの仕事も体が一番の資本ですので、健康が第一です。仕事において休まないということとはとても大きな戦力です。毎日の高校生活を大切に、体づくりに励んでください。